

# 文化財の保護と活用

私たちのまち国分寺市は、天平の昔に諸国に国分寺が配置されたときに、武蔵国の国分寺が建てられたまちです。金堂や七重塔など往時の堂塔は国府に向って南面し、その背後には緑あふれる国分寺崖線（ハケ）が横たわり、ふもとからは随所に清らかな湧水が流れ出て、今も絶えることがありません。

こうした恵まれた自然環境のなかにあつて、市内には国指定史跡武蔵国分寺跡をはじめ、旧石器時代の石器類や縄文時代の土器、住居跡など、いにしへの歴史を伝える数多くの遺跡が保存されています。

また、奈良時代に武蔵国分寺が建立されて以降、この地を経由する東山道武蔵路や鎌倉街道などが政治経済活動上大きな役割を担い、街道の往来により、古くから文化の伝播及び交流が進められ、江戸時代には、玉川上水や用水の恵みを受けた新田開発が行われるなど、先人が今日の暮らしの礎を築き、地域文化の発展がもたらされてきました。

このような過程を経て郷土の先達が残してきた有形無形の文化財は、一つの市のみならず、私たちの国の歴史や文化を正しく理解するために欠かすことができないものであり、同時に将来の市民、さらには国民文化の向上発展の基礎をつくるものです。

今日、市は、都心への交通至便な近郊住宅街としてめざましい変ぼうをとげつつありますが、現代に生きる私たちには、これらかけがえのない歴史遺産を後世に伝える義務があり、あわせて「歴史をつなぎ 未来をひらく 個性がひかり輝くまち」の実現に向けたまちづくりを推進します。

## 文化財愛護シンボルマーク

### 文化財は私たちの宝

文化財を保存し、その活用を図り、私たちの文化的向上に役立て、世界文化の進歩に貢献しよう。

(文化財保護法第1条より)

### 文化財ってなんだろう？

文化財とは、歴史上又は芸術上などの価値が高い、あるいは人々の生活の理解のために必要なすべての文化的所産を指します。

### どんな文化財の種類があるの？

文化財保護法で分類されている文化財は7種類あります。

- 有形文化財…建造物、絵画、彫刻、工芸品、書跡、典籍、古文書、考古資料、歴史資料
- 無形文化財…演劇、音楽、工芸技術、その他無形の文化的所産
- 民俗文化財…衣食住・生業・信仰・年中行事に関する風俗慣習民俗芸能、民俗技術。またこれらに用いられる衣服、器具、家屋
- 記念物…史跡、名勝、天然記念物
- 文化的景観…生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地
- 伝統的建造物群…周囲の環境と一体をなして歴史的風致を形成している伝統的な建物群
- 埋蔵文化財…土地に埋蔵されている文化財

#### \*記念物の細別

- 史跡：貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅、その他の遺跡
- 名勝：庭園、橋梁、峡谷、海浜、山岳
- 天然記念物：動物、植物、地質鉱物

### どうして文化財を保護するの？

紛失、焼失、破損、海外流出などを防いで、今ここで生きている私たちだけではなく、世界中の人や未来の子どもたちにとってもかけがえのない財産として保護しています。

### 文化財の活用ってなに？

活用で最も一般的な方法は、文化財の公開です。たくさんの方が文化財を気軽に眺め親しめるようにすることが、地域における有効な文化財の活用といえます。

### 国分寺市はどんなことをしているの？

国分寺市では、国指定史跡武蔵国分寺跡の調査と整備、市内の埋蔵文化財包蔵地の周知、指定文化財の保護、文化財保護条例の整備、文化財公開施設の設置、市民参加の歴史・文化プロジェクトなど、文化財の保護と活用に積極的に取り組んでいます。



# 国分寺市の文化財保護のあゆみ

年月日	出来事
大正3年4月17日	木造業師如来座像が国指定重要文化財(彫刻)に指定される
大正11年10月12日	武蔵国分寺跡が国指定史跡に指定される
昭和25年5月	文化財保護法公布
昭和27年6月	国分寺町文化財保存館開館
昭和35年2月25日	国分寺町文化財保護条例, 国分寺町文化財専門委員の設置に関する条例制定
昭和35年12月6日	第1回 国分寺町文化財専門委員会(星野亮勝・原崎 昊・佐藤敏也・本多龍雄)
昭和36年8月11日	国分寺町文化財専門委員会委員長・副委員長選出
昭和39年1月15日	市重要有形文化財(建造物)川崎・伊奈両代官謝恩塔、国分寺仁王門、市重要有形文化財(考古資料)国分寺所蔵資料(旧国分寺市文化財保存館資料)、市重要史跡土師竈穴住居跡、市重要天然記念物(植物)万葉植物園、国分寺のコウヤマキ、祥応寺のコノテガシワの7件が指定される
昭和39年3月	尼寺跡無断現状変更を契機とする確認調査開始(昭和44年終了)
昭和39年6月11日	文化財めぐり開催
昭和39年12月	市立第一中学校生徒が恋ヶ窪遺跡の発掘調査
昭和41年12月	『武蔵国分寺図譜』刊行
昭和47年10月	四中建設問題おこる
昭和48年10月	社会教育課に専門職員配置
昭和49年4月10日	『武蔵国分寺』刊行
昭和49年11月22日	市による武蔵国分寺跡保存の基本方針を受け、武蔵国分寺遺跡調査会が発足し、四中建設問題終息
昭和50年6月	社会教育課内に文化財担当幹事設置
昭和50年6月12日	武蔵多喜窪遺跡第一号住居跡出土品一括が国指定重要文化財(考古資料)に指定される
昭和50年12月	国分寺市史編さん委員会条例制定
昭和51年3月31日	国分寺市文化財保護審議会条例制定
昭和51年3月	『埋蔵文化財保護の手引き』『国分寺市遺跡分布地図』作成
昭和51年4月1日	国分寺市文化財保護審議会発足
昭和51年10月7日	市重要有形文化財(建造物)国分寺薬師堂、国分寺楼門の2件が指定される
昭和52年	恋ヶ窪遺跡調査会発足
昭和53年4月	文化財課新設(後に、ふるさと文化財課と改称)
昭和54年9月	史跡武蔵国分寺跡整備計画策定委員会条例制定
昭和55年8月	文化財資料展示室開設
昭和55年11月	史跡武蔵国分寺跡整備計画策定委員会発足
昭和58年5月6日	銅造観音菩薩立像が都有形文化財に指定される
昭和61年3月	『国分寺市史』(上巻刊行)
昭和61年4月	国分寺市遺跡調査会発足
昭和63年3月	『国分寺市史』(中巻刊行)
平成元年3月	史跡武蔵国分寺跡保存管理計画策定
平成元年3月	『見学ガイド 武蔵国分寺のはなし』初版刊行
平成元年4月1日	国分寺市民俗資料室開館
平成元年8月25日	国分寺ホールで「武蔵国分寺のはなし展」開催
平成元年10月1日	市重要有形文化財(古文書)本多良雄家古文書、戸倉義助家古文書、元文元年野中新田検地帳、武蔵野新田養料金一件始末書、南北武蔵野新田養料金始末書、村目日記、武蔵野新田成立期の御用留5冊、徳川将軍家寺領安堵朱印状9通の8件が指定される
平成2年3月22日	緑釉花文皿が都有形文化財(考古資料)に指定される
平成2年3月	史跡武蔵国分寺跡整備基本構想策定
平成2年4月	『国分寺市史』完結(下巻刊行)
平成3年3月	史跡武蔵国分寺跡整備基本計画策定
平成4年2月	伝鎌倉街道が市重要史跡に指定される
平成4年3月	『国分寺市の万葉植物』刊行
平成5年3月31日	『ふるさと国分寺のあゆみ』刊行
平成5年3月	(仮称)郷土博物館基本構想策定
平成5年4月	史跡武蔵国分寺跡〔尼寺地区〕整備事業着手
平成7年1月	『大昔の国分寺』刊行
平成9年3月14日	唐草四獣文銅蓋が都有形文化財(考古資料)に指定される
平成10年3月13日	殿ヶ谷戸庭園が都名勝に指定される
平成10年3月13日	真姿の池湧水群が都名勝に指定される
平成12年1月1日	市史編さん事業終了
平成12年2月1日	市重要有形文化財(考古資料)立川ローム層第Ⅷ層出土石斧群、市重要有形文化財(歴史資料)川崎平右衛門及び観音寺中興開山供養塔、市重要有形民俗文化財疫病神の詫び証文の3件を指定
平成13年3月5日	鉄道学園跡地内の東山道武蔵路が都史跡に指定される
平成14年3月	『国分寺市の文化財』刊行
平成15年2月27日	市重要有形文化財(考古資料)硬玉製大珠、市重要有形文化財(歴史資料)木造書見台 墨書銘「弘治二年」の2件が指定される

年月日	出来事
平成15年3月	史跡武蔵国分寺跡〔僧寺地区〕新整備基本計画策定
平成15年3月	『国分寺の民俗話』刊行
平成15年4月1日	市立歴史公園 武蔵国分寺跡および都史跡東山道武蔵路(武蔵国分寺跡北方地区)開園
平成15年4月	僧寺地区整備事業着手
平成15年8月	歴史公園開園記念シンポジウム「武蔵国分寺を語る」開催
平成15年10月26日	「歩き・み・ふれる歴史の道」武蔵国分寺中央大会(第9回全国大会)《東京・多摩歴史ウォーク》
平成17年4月	住田正一古瓦コレクション寄託
平成17年7月	史跡武蔵国分寺跡周辺地区まちづくり協議会発足
平成17年10月8日	市文化財施設(国分寺市遺跡調査会武蔵事務所)火災により史跡出土品に被害
平成18年3月	国分寺市真姿の池湧水群保存管理計画策定
平成19年3月	『国分寺市有形文化財調査報告書Ⅰ 神社・寺院』刊行
平成19年4月	被災出土品修復事業着手
平成19年8月15日	史跡武蔵国分寺跡周辺地区まちづくり計画策定
平成20年3月	都指定名勝真姿の池湧水群保存整備工事完了
平成20年4月	市立歴史公園 史跡武蔵国分寺跡(僧寺北東地域)開園
平成20年11月	第7回国分寺サミット in 武蔵国分寺 2008開催
平成21年2月	史跡武蔵国分寺跡(僧寺地区)整備実施計画策定
平成21年2月	ふるさと文化財課が西元町一丁目に移転
平成21年10月18日	市立歴史公園 史跡武蔵国分寺跡(国分寺崖線下地域)開園【武蔵国分寺跡資料館・おたかの道湧水園・史跡の駅オープン】
平成21年11月9日	国分寺市文化財保存館閉館
平成22年8月5日	東山道武蔵路跡が附で国史跡に追加指定される
平成22年12月24日	国分寺市文化財の保存と活用に関する条例公布
平成23年2月8日	おたかの道湧水園内歴史的建造物保存活用計画策定
平成23年4月1日	市立歴史公園 史跡東山道武蔵路跡(武蔵国分寺跡北方地区)開園
平成23年4月1日	国分寺市文化財保護条例および国分寺市文化財保護審議会条例を廃止し、国分寺市文化財の保存と活用に関する条例を施行する
平成23年5月	史跡武蔵国分寺跡(僧寺地区)第一期整備〔中枢地区〕基本設計策定
平成23年9月21日	殿ヶ谷戸庭園(随宜園)が国指定名勝に指定される
平成23年10月1日	国分寺市史跡武蔵国分寺跡整備計画策定委員会条例を廃止し、国分寺市史跡武蔵国分寺跡保存整備委員会設置条例を施行する
平成24年2月24日	おたかの道湧水園内の日本多家住宅長屋門と日本多家住宅倉が市重要有形文化財(建造物)に指定される
平成24年4月	史跡武蔵国分寺跡附東山道武蔵路保存管理計画(第2次)が策定される
平成25年11月4日	両市町の連携事業の一環として、埼玉県鳩山町で造られた復元古代瓦が運上され、国分寺まつりにて受渡式を行う
平成26年4月1日	市重要有形文化財(考古資料)小型海獣葡萄鏡、金銅製円形飾金具、市重要有形民俗文化財本多八幡神社の力石、市重要天然記念物西町五丁目の旧屋敷林の4件が指定される
平成27年2月10日	『市制施行50周年記念 国分寺市の今昔』刊行
平成27年2月15日	国分寺市制施行50周年記念事業 歴史文化フォーラム「平安時代における祈りの空間」開催
平成27年3月	史跡武蔵国分寺跡(僧寺地区)講堂跡の瓦積基壇外装復元工事完了
平成27年9月	市重要有形文化財(建造物)日本多家住宅長屋門 保存修理工事着手
平成27年10月1日	国重要無形文化財(個人)工芸技術の部(金工)鍛金の保持者に市内在住の大角幸枝氏が指定される
平成29年3月	『古代道路を掘る-東山道武蔵路の調査成果と保存活用-』刊行
平成29年9月	市重要有形文化財(建造物)日本多家住宅長屋門及び日本多家住宅倉保存修理工事竣工
平成29年12月4日	恋ヶ窪村分水が市重要史跡に指定される
平成30年4月2日	市重要有形文化財(建造物)日本多家住宅長屋門一般公開開始
平成31年3月1日	市立歴史公園 史跡武蔵国分寺跡(僧寺中枢地域)開園
令和2年3月	史跡武蔵国分寺跡(僧寺地区)第一期整備〔中枢部周辺地区〕基本設計を策定
令和3年3月25日	本多八幡神社神輿が市重要有形民俗文化財に指定される
令和3年10月14日	沖本家住宅洋館・和館が国登録有形文化財に登録される
令和4年9月30日	中藤新田分水跡が市重要史跡に指定される
令和4年10月12日	史跡武蔵国分寺跡が国指定100周年を迎える
令和7年1月1日	ふるさと文化財課が泉町二丁目に移転
令和7年3月21日	史跡武蔵国分寺跡(僧寺地区)南門地区が公開される